

窓の内側への対策

①外出時は昼間でもカーテンを閉める

カーテンを閉めておくことで、日差しや外気による室内温度への影響を和らげることができます。

②カーテンの上下の隙間対策

カーテン上部にカーテンボックスを付けることで、上の隙間からの外気の侵入を防ぐことができます。また、下の部分には発砲素材などのブロックパネルを立てかけることで対策が可能。

③遮熱カーテンの利用

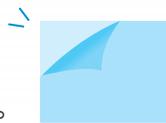
生地裏面にコーティング加工を施したり、生地に特殊な遮熱糸を使用することで、高い遮熱性を実現したカーテンがあります。製品によって違いはあるものの、室内側と室外側で温度差が5度以上になるものも。

④遮熱フィルムの利用

ホームセンターなどで売られている遮熱フィルムは、水で窓に貼ることができ手軽にできる対策として人気。



カーテンの長さも重要!!
短いとせっかく遮断・保温した熱が逃げてしまいます。



窓の外側への対策

夏場は、日本家屋でも古くから使われる「すだれ」が大活躍!外側から日差しをさえぎることで、家自体が暑くなることを和らげてくれます。最近では、すだれと同じ機能を果たすおしゃれなシェードなど手軽に楽しめるものもあるので活用してみましょう。緑のカーテンも同じ効果があります。

冬場は、逆に外して太陽の熱が家に当たるようにしておく方が暖房の節約につながります。
緑のカーテンは、
朝顔やゴーヤなどの花や実も楽しめます。

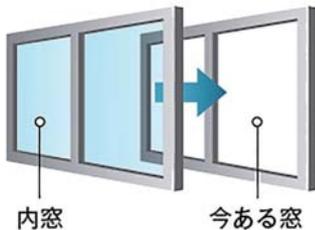


窓の改修

豊島区では、平成29年度より窓の改修の設置費用の一部(4分の1・上限10万円)をエコ住宅の普及促進として助成しています。制度の詳細は、裏面をご覧ください。

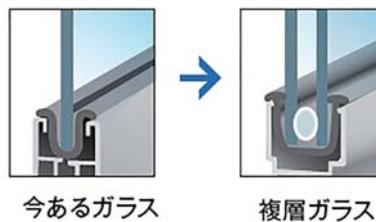
1 内窓で窓を二重に

断熱 結露防止 防音 かんたん施工



2 ガラスだけ交換する

断熱 結露防止 かんたん施工 デザインそのまま



3 窓を丸ごと交換する

断熱 結露防止 デザインそのまま

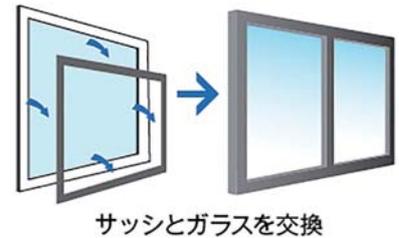


図:エコ窓普及促進会より提供

窓を二重にする、または、断熱性能の高いガラスに替えることにより、窓からの熱の出入りを大幅に削減することができます。①の内窓をつけて窓を二重にする方法は、マンションでも導入できます。

窓の改修の効果や事例などの情報はこちらで紹介しています。

エコ窓普及促進会

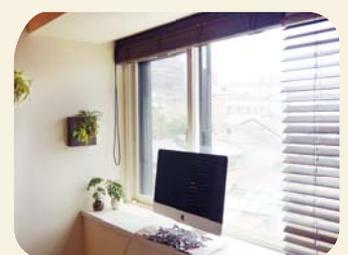
<http://www.ecomado.org/>

体験者の声



豊島区在住
上田 由香さんと
犬の蘭丸くん

以前住んでいた部屋が最上階の角部屋で、光熱費が割高だったという上田さん。中古マンション購入を機に、マンションでも導入しやすい「内窓」を付ける改修を実施。効果を感じるの、特に冬場。外の温度が中に伝わりにくいため、暖房をつけなくても、朝起きてからパジャマだけで室内を歩けるほど。夏も、窓辺に行く気温が高いといったことがなく、エアコンを消した後も1~2時間は温度が保たれるそうです。「室内の温度ムラが少ないことが本当に快適で、内窓の設置に積極的でなかった主人も今では大満足。離れて暮らす両親にも勧めました。」とおっしゃる上田さん。ペットのために、冷房はつけっぱなしのことも多くても、光熱費は約2~3割削減。内窓の恩恵を家族全員で実感されているようです。



室内から見た窓の様子
内窓のため、カーテンを付ける必要がなく、ブラインドでおしゃれな空間に。